

プログラム及び参加者紹介

プログラム

9月 26日 (水) (議長：加賀谷 貞司 防衛研究所戦史部長)

オープニング・セッション

- 1000～1005 開会挨拶 戸田 量弘 (防衛研究所長)
- 1005～1010 開会に寄せて 増田 好平 (防衛事務次官)
- 1010～1020 議長からの趣旨説明 (発表者の紹介等)
- 1020～1120 特別講演 保阪 正康 (ノンフィクション作家、評論家)
『アツツ玉砕』に見る戦略思想
- 1120～1140 休 憩

第1セッション「戦争指導」

- 1140～1210 発表 戸部 良一 (防衛大学校教授)
「日本の戦争指導－3つの視点から－」
- 1210～1240 発表 アラン・R・ミレット (ニュー・オーリンズ大学教授)
「アジア・太平洋戦争再考 (1937－1945年)
－アメリカの勝利は必然であったか－」
- 1240～1400 昼食休憩

第2セッション「軍 政」

- 1400～1430 発表 芳賀 美智雄 (元陸上自衛隊幹部学校研究課研究員)
「インドネシアにおける日本軍政の実態－その光と影－」
- 1430～1500 発表 コンラッド・C・クレーン (米陸軍大学歴史研究所長)
「米国による日本及び朝鮮半島南部の占領－比較の観点から－」
- 1500～1510 休 憩

第3セッション「捕 虜」

1510～1540 発表 立川 京一（防衛研究所戦史部主任研究官）

「日本の捕虜取扱いの背景と方針」

1540～1610 発表 マーク・P・パリロ（カンザス州立大学教授）

「アメリカ軍捕虜と残留日本兵—太平洋戦争の『記憶』形成の視点から—」

1610～1630 休 憩

総合討議・議長総括

1630～1650 コメント 赤木 完爾（慶應義塾大学教授）

1650～1725 総合討議・議長総括

1725～1730 閉会挨拶 渡部 悦和（防衛研究所副所長）

参加者紹介

議長

加賀谷 貞司

現職：防衛研究所戦史部長

略歴：防衛大学校卒業。第 10 師団幕僚長、陸上自衛隊幹部学校教育部長、第 2 高射特科団長、陸上自衛隊幹部学校副校長など歴任。2006 年退官。元陸将補。2006 年 4 月から現職。

特別講演者

保阪 正康

現職：ノンフィクション作家、評論家

略歴：同志社大学文学部卒業。出版社勤務を経て、著述活動に入る。日本近代史のほか、医療についても作品を発表。個人誌『昭和史講座』主宰。2004 年、昭和史研究の一連の業績に対して、第 52 回菊池寛賞を受賞。

著書：『破綻 陸軍省軍務局と日米開戦』（講談社、1978 年）『東條英機と天皇の時代上・下』（伝統と現代社、1979 年・1980 年）、『昭和陸軍の研究』（朝日新聞社、1999 年）、『昭和史七つの謎』（講談社、2000 年）、『吉田茂という逆説』（中央公論新社、2000 年）、『戦争観なき平和論』（中央公論新社、2003 年）、『昭和天皇』（中央公論新社、2005 年）、『検証・昭和史の焦点』（文藝春秋、2006 年）、『開戦、東條英機が泣いた』（毎日新聞社、2007 年）ほか。

発表者（発表順）

戸部 良一

現職：防衛大学校国際関係学科教授

略歴：京都大学法学部卒業、同大学大学院法学研究科（政治学専攻）博士課程満期退学。博士（法学）。防衛大学校助教授を経て、1990 年から現職。同大学図書館長等を歴任。

著書：『失敗の本質－日本軍の組織論的研究－』（共著、ダイヤモンド社、1984 年）、『ピース・フィーラー－支那事変和平工作の群像－』（論創社、1991 年）、『逆説の軍隊』（中央公論社、「日本の近代」第 9 巻、1998 年）、『日本陸軍と中国－「支那通」にみる夢と蹉跌－』（講談社、選書メチエ、1999 年）、『日中戦争の軍事的展開』（共編、慶應義塾大学出版会、2006 年）ほか。

アラン・R・ミレット (Allan R. Millett)

現職：ニュー・オーリンズ大学教授（歴史学）兼 同大学アイゼンハワー・アメリカ研究所長 兼 国立第二次世界大戦博物館主任軍事顧問。国際軍事史学会副会長。

略歴：オハイオ州立大学大学院博士課程修了（歴史学博士）。オハイオ州立大学歴史学部教授、韓国国防大学客員研究員、アメリカ軍事史評議会会長など歴任。2006年から現職。長年にわたる軍事史の研究業績が総体として評価され、アメリカ軍事史学会よりサミュエル・エリオット・モリソン賞を受賞（2004年）。

著書：*Semper Fidelis: The History of the United States Marine Corps* (1980, 1991)
（『常に忠誠を』－アメリカ海兵隊史－）

A War to be Won: Fighting the Second World War (2000)

（『勝たなければならぬ戦争－第二次世界大戦の作戦戦闘史－』）

For the Common Defense: A Military History of the United States of America
(1984, 1994)（『共同の防衛を』－アメリカ合衆国の軍事史－）

Calculations: Net Assessment and the Coming of World War II (1992)

（『計算－総合評価と第二次世界大戦の発生－』（共編著））ほか。

芳賀 美智雄

略歴：防衛大学校卒業、熊本大学大学院修士課程（化学工学）修了。陸上自衛隊幹部学校戦史教官、防衛研究所戦史部主任研究官、陸上自衛隊幹部学校研究課研究員（1等陸佐）を経て、2007年12月退職。

著書：「インドネシアにおける日本軍政の功罪」『戦史研究年報』（第10号）ほか。

コンラッド・C・クレーン (Conrad C. Crane)

現職：アメリカ陸軍大学歴史研究所長（退役陸軍大佐）

略歴：米国陸軍士官学校卒業後、陸軍少尉に任官（1974年）。スタンフォード大学で修士および博士を修得。陸軍士官学校歴史学教授（1992年）、陸軍大学戦略研究所研究員（2000年）を経て、2003年から現職。

著書：*American Airpower Strategy in Korea, 1950-1953* (2000)

（『朝鮮戦争におけるアメリカの空軍戦略、1950～1953年』）

Bombs, Cities, and Civilians: American Airpower Strategy in World War II

(1993)（『爆弾、都市と市民－第二次世界大戦におけるアメリカの空軍戦略－』）
ほか。

立川 京一

現職：防衛研究所戦史部主任研究官

略歴：上智大学卒業、同大学院博士課程修了（国際関係専攻）。博士（国際関係）。

防衛研究所助手を経て、2000年から現職。

著書：『第二次世界大戦とフランス領インドシナ』（彩流社、2000年）、『戦争の本質と軍事力の諸相』（共著、彩流社、2004年）、『エア・パワー』（共編著、芙蓉書房出版、2005年）、*British and Japanese Military Leadership in the Far Eastern War, 1941-1945*（共著、2004年）ほか。

マーク・P・パリロ（Mark P. Parillo）

現職：カンザス州立大学教授（歴史学）

略歴：オハイオ州立大学（博士）。カンザス州立大学助教授（1992年）を経て現職。

著書：*The Japanese Merchant Marine in World War II* (1993)

（『第二次世界大戦における日本の商船隊』）

We Were in the Big One: Experiences of The World War II Generation (2002)

（『我々ほでかいやつに参加したーアメリカの第二次世界大戦世代ー』）

“Burma and Southeast Asia, 1941-1945” in *World War II in Asia and the Pacific and the War's Aftermath, with General Themes: A Handbook of Literature and Research* (1998年)

（「ビルマと東南アジア 1941-1945年」、『アジアおよび太平洋における第二次世界大戦と戦争の余波』（1998）に所収）ほか。

コメンテーター

赤木 完爾

現職：慶應義塾大学法学部教授

略歴：慶應義塾大学法学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了。博士（法学）。

防衛研究所所員、慶應義塾大学助教授を経て、1997年から現職。

著書：『ヴェトナム戦争の起源』（慶應通信、1991年）、『第二次世界大戦の政治と戦略』（慶應義塾大学出版会、1997年）、『朝鮮戦争一休戦50周年の検証・半島の内と外からー』（編著、慶應義塾大学出版会、2003年）ほか。

太平洋戦争の新視点－戦争指導・軍政・捕虜－

平成 19 年度戦争史研究国際フォーラム報告書

発行日 平成 20 年 3 月 31 日

編集・発行 防衛省防衛研究所

〒153-8648

東京都目黒区中目黒 2-2-1

電話:03-5721-7005

FAX:03-3713-6149

E-mail:planning@nids.go.jp

ISBN 978-4-939034-45-9

© 無断転載を禁ず。